

第 8 回 まちづくり戦略会議

平成 17 年 3 月 28 日  
午後 3 時から午後 5 時  
市役所本館 6 階  
第 4 委員会室にて

司会

お忙しい中ご出席をいただきまして大変ありがとうございます。今回で最終回ということになりましたが、ただいまから第8回まちづくり戦略会議を開催いたします。

本日は大浦委員、桜内委員がご欠席でございます。

事務局から事前にお送りしました資料の確認をさせていただきます。

まず、これまでの当会議でのご発言を要約した、まちづくり戦略会議での発言要旨。

12月2日に開催された第6回会議録。

そして1月13日の第7回会議録です。

第7回の議事録は未定稿ですが、これにつきましては内容のご確認をお願いいたします。

それからこのたびの広域合併にあたって作成した新・新潟市合併マニフェスト、全部で3冊になっております。

以上4点の資料の事前配布をさせていただいておりますので、ご確認をよろしくをお願いいたします。

では与田座長、よろしくお願いいたします。

与田座長

それではまず市長がいらっしゃいましたので、マニフェストと合わせましてご挨拶をお願いします。

篠田市長

本日も大変お忙しいところお集まりいただきましてまことにありがとうございました。

これまで8回やっていただいて本当にいろいろな切り口からご意見をいただきました。

我々は政令指定都市をめざすこの2年間の取り組みが非常に重要だと思っておりますので皆様のご意見は、マニフェストにも反映させていただいております。

今回マニフェストは2月に素案として35の施策を盛り込んだものを出させていただきました。確定版にはそれにプラスをして40の施策としました。

工程表が入っている40の扉で説明したいと思います。他に2冊ありますが、1つは理念などを書かせていただき、1つは資料編といった形でまとめてあります。

工程表については、素案から追加したのは、まず最初に8ページのマニフェスト施策一覧、ここに若干追加したのがあります。

2の「地域から羽ばたき世界で自己実現する市民が育つ都市」の でございますが2005、2006年度の2年間で39,000人の雇用の確保を図るということで、雇用目標の数字を素案の段階でまとめられなかったのが、追加して数字を書き込ませていただきました。

全体的には文化の部分がないじゃないかという指摘があったので、9ページ目の3「地域の文化と価値観を磨き世界に発信能力を持つ都市」で、「歴史と風格ある「まち」とし

て栄えてきた新潟の市民かたぎやまちの個性を土台に、魅力ある地域文化の掘り起こしや新たな文化を創造し、国際文化都市新潟を世界に発信します」という形で入れさせていただきました。

続く で「食と花の新潟を新潟の都市ブランドとし、市役所のシティプロモーション部門を充実し、市民や民間企業とともに新市の魅力を国内外にアピールします」ということで、これも皆様方からいろいろいただいたご意見を土台にさせていただいて、シティプロモーションを充実させようと考えております。

今回観光コンベンション協会の担当を観光物産課から市政創造推進室へ移しまして、観光コンベンションや、それ以外のシティプロモーションを一緒に取り組むということでございます。

一番下の「4港・空港と高速交通体系を活かし国内外と交流する都市」の「政令市・新潟の陸の玄関口となる新潟駅周辺の整備に着手し、市民や訪れる人にとって快適で魅力的な交通拠点、都市拠点づくりを行います」で連続立体交差を何が何でもやるということで盛り込ませていただきました。

次に田園型政令市のところでございます。

10 ページの1の 、日本一の農業都市としての基盤をさらに強固なものとするために、土地利用規制やお酒の醸造規制、これらを緩和していただいて構造改革特区を申請する。

その特区の活用により新市の農業の特徴を十分に発展させ、新市のまちづくりに生かしますということで、構造改革特区、日本一の大農業都市特区というようなことをやっているんじゃないかという形で盛り込ませていただきました。

それから施策ではございませんが、4 ページ目、新潟の合併・政令市がめざすものと、3つの柱が書いてございますが、3本目でございます。合併で行財政を効率化ということの下から4行目、職員が500人ほど多くなる。

これを10年間で適正し、計220億円、一般職員を適正化して経費を削減すると財政計画で明記しておりますが、この計画期間の大幅な短縮と節減額の拡大に努めますということ素案の段階では抜けていたんですが書かせていただいて、10年間なんて悠長なことを言っていない。

大幅となると普通は半分ぐらいというイメージだと思いますし、仮に5年で適正化をすればさらに100億円程度経費節減につながるということなので、これは新年度早々にこういう形でいきたいということをもとめて、議員の皆様、市民の皆様にお伝えしたいと思っております。

そんな形でマニフェストを素案から確定版に追加させていただいております。

このマニフェストについては、北川正恭さんが世に出したわけですが、北川さんに先日お会いして新潟のマニフェストの事前評価をいただきました。

北川さんからは、このマニフェストは選挙をやらない時期に、そして普通のマニフェストは候補者が書くわけだけど、これを市長だけじゃなくて行政全体で書いている、

この2点の点でまがいもなくまがい物、間違いなくまがい物のマニフェストであるけれども、すばらしいまがい物になる可能性がある。ひょっとしたらマニフェストの新しい境地を切り開くのではないかとということで注目しているという、大変温かい支援のアドバイスがございました。

すでに金曜日に北川さんたちが呼びかけたマニフェスト推進議員連盟、その場でこのコピーを配っていただいたということでした。

犬山市の取り組みと一緒に配っておいたということです。

計画を作って終わりだということではなく、まさにマニフェストはこれから取り組むということで、後で検証がされるわけですので、2005、2006年度、心して推進に取り組まねばならないと思っております。

また今回いただいた意見で、このマニフェストに盛り込めなかったものも、取り上げられるものはできるだけ早く取り上げてまいりたいと思います。

与田座長

本日はこれまで第7回までずっとやってきていただいた中で、ご自分でまだ言い足りないという部分、あるいはこの部分は強調したいという部分、特にご専門を持っていらっしゃる先生方につきましてはご自分のご専門の立場からお話をいただきたい。

専門を持っていない私を含めた方々は市民としてのお話をいただきたい。

熊谷さんは何でもできる、そういう形でそれぞれ最後に皆さんが言い足りなかった部分を議論していただいて本日の会議を締めたいと思いますので、よろしくご協力お願い申し上げます。

したがって本日テーマはございません。ご自分のお持ちのテーマについてお話をいただきたいと思います。

ただ座長といたしまして、新潟市で今年11月にやることになりました食と花の世界シンポジウムをやるんですが、私はこれの見本市部会長をやっています、見本市をやるときのやり方について、もし皆さんからご意見があればお聞きをしたいと思っております。

食のフォーラムにつきましては、シンポジウムと見本市の二本立てになっていまして、見本市という名前ですからトレードフェアであります。

つまり、どちらかというと市民の皆様楽しんでいただくのは食の陣であって、私のほうは、さっき市長が言われたアジアや国内外に対して新潟のブランドを売り込むための、あるいはアジアからくる食品についての日本における発信基地になれるかなということです。

また、ちょっと視点は違いますが、11月にやりますので食の陣も多少からむかなと思います。

したがって、市民の皆さんに楽しんでもらうほうはどちらかというと食の陣のほうで担当していただき、我々は商売になるような形で新潟ブランドを売り込みたいということだ

やりたいと考えていますので、もし時間がございましたらその辺もお聞きしたいなと思っております。

というのは前置きでございますが、横山先生のほうからご専門の少子・高齢化社会における福祉政策についてお話をいただきたいと思えます。

横山委員

私は社会保障の研究をしておりますから、社会保障の側面で1つ、2つ考えてまいりました。

それはまちづくり戦略会議ですから、まちづくりに関する、ハード面はだいぶいろいろ考えてきたと思えますが、具体的に日常生活を安楽に送るという側面では必ずしも十分ではなかったんじゃないかと思えます。

これはまちづくりですから致し方ない。

ほかにこういう委員会があるかどうか知りませんが、あればそちらでしているであろうから、こちらでしなくてもよかったんだろうか、そんなことをまず考えました。

そして具体的には日常の生活を安楽に送るというときに、最初に考えるべきことは市民のどういう人たちを対象にするかということです。

これまで日本は安全社会であるとか災害のない社会であるといわれておりましたが、安全な社会というのはどうもこのごろおかしくなっていると思えます。

このマニフェストの資料編を見ますと、犯罪発生率は静岡市に次いで低いということになっておりますが、新潟の場合には拉致された人たちがたくさんいるんですから、件数は少ないかもしれないけれども事の重大性というのはきわめて高いんじゃないかと思えます。

高齢者のみを対象にするということは現在の犯罪社会化している日本では不適切かもしれませんが、ごく日常的なレベルで考えてみますと、やはり高齢者の生活保障というものが第一じゃないかと。

これに関しましては、やはり6ページの上の左の真ん中に老人ホームの数等が示してあります。

しかしこれを見ても、まあまあレベルであります。新潟市が高齢者の生活保障をこれからどういうふうに進んでいくのだろうか、こういう具体的なものが必ずしも明確ではない。

特に高齢者になったときに生活は3つの面で保障する必要がある。

1つは所得であるし、1つは健康であるし、3つ目は日常生活の介護に代表される家事の保障。

所得のほうは年金保険でしますから、これは県とか市では出せない問題だと思います。

市としては健康のための医療、日常生活の介護を中心とした家事保障ですね。

これをどういうふうにしていくのか。そのようなことを今後お考え願えればいいのではないかと思えます。

それから市長がこのマニフェストの40の扉のところまで9ページの3の 歴史と風格のあるまちとして栄えてきた新潟市うんぬんとありますが、これに関しましては最近知ったんですけれども、『新潟の碩学』という本が出ているんですね。

この間本屋に行ってみましたら、大変面白いと思いました。

買ってきましたけれども、新潟には世界的なレベルでの碩学がいっぱいあるんですね。

最大の方は荻野通りに名前が残っている、荻野久作さんだと思います。

これに関して新潟大学の大学院の学生を含めて研究会を開いて、ソーシャルポリシーのパイオニアということで、新潟県の碩学を中心としたところの新潟中心の文化が過去においてどれだけ意味があったかというようなことをまとめたいと思っております。

機会があれば新潟市から出版助成金をいただければ、こんなにありがたいことはありませんが。

与田座長

今の話の中でいえば、新潟には荻野先生がいっぱいいることで、医学に関しては発信をしていたまちであるということ考えたときに、さっきおっしゃる高齢者生活のうちの健康と日常家事の部分について、先生は政令市になる新潟市はどういうとこまで踏み込むべきかと考えますか。

特に、ここの部分というのは、今はどちらかというところと自己責任とかあるいは自助自立というところに振っていますよね。

先生のような研究者から見たときに今おっしゃるような健康ならびに日常生活、家事、介護、どこまで行政としては踏み込むべきだと思いますか。

僕がなぜ荻野先生の話をしたかといいますと、そういう歴史を持った新潟市は、日本に冠たる、そういうものをきちりやっているまちだということも発信イメージになるからです。

そういうときに何をしたらいいか。

横山委員

余計なことをもう1つ。

新潟市は荻野通りというのを作っています。

最近荻野さんとあのお医者さんの銅像が2つ出てきていますね。

その荻野通りのネーミングというのは、素晴らしいことなんです。

世界的には、貢献した人に名前をつけるのがあって、一番大きいのは町、それからストリートにつける。

新潟がストリートにつけたというのは素晴らしいことだと、もっと評価すべきだと思います。

大熊委員

日本では、人の名前がついたストリートというのは、新潟の荻野通りだけだと思います。他はないんじゃないでしょうか。

及川委員

川崎の鈴木町、通りじゃないけれども、味の素の。

与田座長

お金持ちの人とか、そういうのはいっぱいあるかもしれませんね。

横山委員

企業城下町はたくさんあるんです。

与田座長

大熊先生もタウンウォッチングはされていますものね。

それは今先生がおっしゃったように医学というものに関して、新潟市がこれだけの歴史がありますよということを発信できる1つの事例だと思います。

ただ、あそこへ見せてくれといっても何も見せるものはありませんね。

それはつらいところですね。

横山委員

見せるものは、新潟大学の医学部の図書館に荻野さんの業績を示した文書があるんです。

与田座長

荻野通りへ行ってもだめでしょう。

横山委員

荻野通りだったらあそこに新潟大学に行きなさいという案内をしておけば、

大熊委員

荻野さんの業績は全部うちでまとめてあります。

横山委員

この医療に関しましては大川さんの専門ですから、私の立場から言うのは医師数を確保するということ、それから病院等の施設を確保するということ、これに関しましては日本の医療機関というのは国立病院まで含めて独立採算制を国が求めているんです。

病院というのは世界的な規模でいうと、赤字経営をしてもいいところですよ。プラスマイナスを問わないから、市ないしは県が金を出す、これが病院なんですよ。そういう医療からいかに営利性を排除するかということに関して、医師会と話をしているかざるを得ない問題だと思っていますが、なかなか医師会はその辺ガードが固い。あとは身の回りの世話、介護の問題です。介護の問題は、今までは老人福祉というのは貧困者だけの生活保障でした。ところが、老人の介護の問題というのは貧困でもなんでもありません。通常の生活している人も寝たきり老人を抱えたら大変になるわけです。しかし、高齢者を抱えるようになったときにどういう支援をするかというのは、その家の主婦が、よその人を入れることを認めるか認めないかということが大きな要素で、いやがる人もいます。

与田座長

先生は先ほど施設の話がされましたが、いわゆる自宅介護に中心を置くべきなのか、施設が逆にいえば足りないんです。

入れる場所がないんですよ。

頼みにいけば何年待ちだという話になっている。

ものすごく高いところは空いているけれども、あそこは無理だと、こういう状況が起きていますね。

自宅介護は、今はいろいろ専門の企業もありますね。

あれは完全な民間企業ですから、行政は関係しない部分もありますが、介護保険をやっているわけですから、このあたりのところでどういうふうに整合性をもっていったら、施設の問題と自宅介護という問題を考えるのか。

市は、行政はどこまで踏み込むべきか。

篠田市長

その関係で、介護がいないというのがもちろんありがたいわけで、12ページのマニフェストの中で若干書かせてもらっているんですが、一番下の です。

基本的には健康寿命を伸ばしていくことは誰もが望むことだと思いますが、健康寿命を伸ばしたいと言っても、新潟市の健康寿命は何歳だといったらその資料がなかったんです。

基本的には、まずそういう数値から把握していかなければだめだと思います。

基本的には今の健康寿命を把握しましょうということで、新年度に健康づくりアクションプランというのを作ります。

健康寿命を1歳でも2歳でも伸ばしていくために、健康づくりアクションプランをやろうと。

陰のテーマとすれば、老人医療費を1人あたりの老人医療費、今新潟県は長野県に次いで



低いわけですから、これをもっと全国にアピールする。

長野だけがすごくいいイメージを発信していますが、新潟県もそういう数字があると。

長野市と新潟市を比較してみると、圧倒的に長野市が全国の主要都市の中で一番老人医療費が低いということがわかったので、じゃあ新潟市が長野市を抜けばひょっとしたら新潟県も長野県を抜けるんじゃないかと。

これを1つの大きな目標にして健康寿命、介護予防、あまりいい言葉じゃないけれども、とにかく健康で長生きしていただける方を増やして、最終的には健康づくり日本一という都市になろうと。

ところが今回合併した近隣の12市町村と新潟市を合わせると新潟県の中で老人医療費が高いワースト10を全部だったかそれに近い、それが寄り集まるので、これは取り組むべき課題です。

この78万の新潟市で長野市を抜けば絶対新潟県がナンバーワンになるという目標、これは市民にも当事者にも家族にも喜ばれるし、新潟市の財政にもありがたいわけで、これには相当力を入れてやって間違いなく成果が出ますというメニューが並べば、それにはさうとう事業費を使っていいんじゃないかと考えています。

とりあえず数値把握から始めて、同時に健康づくりアクションプランをやるということで、この新年度に動き出して、手応えが出てくれば政令指定都市になったときに日本一健康な政令指定都市ということで、これは今でも言えるんじゃないかと思うんですが、それを打ち出したいなと感じて考えています。

与田座長

介護予防という考え方は面白いですね。

長谷川委員

持ち家率が新潟市は1位になりますね。

在宅介護になる前の予防としては、住宅の改修というのは非常に有効だといわれていて、介護予防の住宅改修の手当ても出しています。

住宅改修もやっていたということになると、そういう意味でも健康寿命が伸びていく可能性もありますから、やはりそれは崩さないほうがいいでしょうし、家の構造が外部からのサービスを招き入れるようになかなかなくて、それをうまく改修できないでいる。

そういうことをきちんとアドバイスするところがないので必要だと思います。

与田座長

改修に対して金を出しているというのはみんな知っていることですか。

長谷川委員

そうでもないかもしれませんね。  
介護保険と両方使えるようになっています。

与田座長

関連でここまできたら大川先生にいきましょう。

大川委員

福祉関係については、私は内科医じゃないのであまり詳しくないんですが、介護予防、これは完全に立派な言葉として世間に通用し始めています。

というのは、介護保険が今いろいろなので使われているといわれているんですが、使われ過ぎとっていいのかわかりませんが、ご承知のとおり赤字で、それを防ぐために健康寿命という言葉もありますし、とにかく介護予防をしていかなければだめだと思います。

もう1つは、そのための老人のトレーニング、筋トレなんていう言葉を使っている人もいますが、それは別に機械を使って筋トレという意味じゃなくて、どこかの小さい市町村で一生懸命やって成果があらわれているのをご覧になった方もいると思います。

そういう老人の健康管理のためのできる範囲でのトレーニングをして、それで最終的には健康寿命を延伸する。

そういうことは、これからさらに本格的に取り組まれて、国の施策としてもあると思います。

そうしないと、このままいけば介護保険なんていくらお金があっても足りない。

医療費も足りなければ介護保険も足りない。

これではなんともしようがないということで、これは国の施策として、介護予防はどんどん行われていくと思います。

与田座長

私の知り合いに体育学部を出た人がいて、うちへ遊びに来たときに母親にストレッチ体操を教えたんです。

毎日やって調子がよくて、おなかも引っ込んできたと言っています。

ああいうことを市の運動としてやるといいと思います。

高齢者は運動したいんだけど、どうやっていいかわからない。

大川委員

あまり危険のないように、専門的な方から教えてあげるのが大事だと思います。

与田座長

そういうことを新潟市も取り上げてやるとかなりそれに対して期待する人も出てきますよね。

横山委員

テレビでやればいいんですね。

大川委員

これについては、今後も大いに進められていくと思いますし、また新潟市でも取り組んでいってほしいと思います。

また、今回はいわゆる専門的立場からということで、宿題をあらかじめいただいたわけですが、この立派なマニフェストを見ましたら私がもう答えることがないようなものだったんですが、多少は責務を果たさなければならないと思いますので。

全体的なことですが、今ご承知のとおり合併が行なわれておりまして、新潟県の医療圏が再編されるわけです。

新潟市は非常に大きくなるわけで、その中でどのように再編されるかというのがありますが、ご承知のとおり新市民病院が4年後に完成します。

立派な救命救急センターもできると思いますが、新発田市も約2年後に立派な病院ができます。

そうなりますと、湯沢、魚沼地域は遅れますが、それ以外の上中下越が救命救急センターを有することになり救急医療は再編、確立されていきます。一方、今回合併して広大な面積になった新潟市の医療・保健、特に救急関係、市民、子供達の検診体制をいかに確立していくかが当面の課題です。来月からスタートするわけですが。教育委員会、保健所は大変な状況にあると思います。

これらは急に完璧にはできないことですが、当面市民にとって大きな問題で、きちんとやることにより、新しく新潟市民になられた方々との一体感の醸成にも大いに役立つことだと思います。

もう一点は、新しい市民病院にさらに立派な救命救急センターができて高次救急は充実されますが、一次、二次救急が現状でいいのかという点については、広大な面積になった新しい新潟市としては十分とはいえないわけです。当面、政令市になるまでの間は現状のままでいくことになっていますが、その現状も本当にこれでいいのか、まだまだ十分とはいえません。

それから生活習慣病、このマニフェストにもあるんですが、今一番問題になっているのは糖尿病です。

これは大人はもちろんですが、子どもを含めて糖尿病の患者がどんどん増えています。

当然それは目とか神経にまつわる足、それから腎臓にきて糖尿病性腎症ということで透

析の患者がどんどん増えています。

これに対する対応というのが一番問題になってくるということがいえます。

もう1つは高齢者の問題。

この3つは当面大きな問題だと思うんですが、残念ながらとっていいのかわかるか、マニフェストにはそれほど踏み込んでいないかなと思います。

これはやがて福祉保健医療計画が策定されると思いますので、そこでもっと細かいといましようか、きちんとしたものが作成され織り込まれるものだと思っております。

これだともうちょっと踏み込んでいただけたらというのが、実は医師会の中から佐々木会長からもそういう話が出ています。

与田座長

肥満の減少は書いてありますね。

大川委員

肥満はありますけれども糖尿病はないんですね。

与田座長

そうですね。だからやるとすれば12ページの防災、防犯、健康、保健福祉の地域で分権都市の中で1番目のところに食習慣の話がありますから、このあたりに糖尿病の問題も入れてもらえばいいかもしれませんね。

大川委員

37ページにもうちょっと詳しく書いてあって、37、38、39と書いてあるんですが、もうちょっと書いてもらってもいいのかなということです。

与田座長

糖尿病というのは遺伝だということをお聞きしたことがあるんですが、そういうことはないんですか。

大川委員

いわゆる疾病の上では明らかな遺伝形式はないわけで、多くは、生活習慣病ですね。それと救急は365日、ほぼ24時間の体制になっていて、全国的に見ては確かにいいんです。

しかし問題点はたくさんあるわけで、新潟市全体としてとりあえず確立されたものでこれでいいのかなと思っている部分があって、緊張感が、医療機関しかり、医師会、行政にもちょっと薄れてきているかなと思います。

与田座長

さっきおっしゃった一次救急、二次救急というのはどういうふうに分けているんですか。

大川委員

一次、二次救急の分け方はなかなか面倒で簡単にはお話できませんが、取りあえず分かりやすくいえば、一次は入院の必要のない軽症、二次は入院を要する比較的重症患者ということになりましょうか。

与田座長

そこでおっしゃる緊張感が足りないとおっしゃる意味はどのあたりでしょうか。

大川委員

これはいろいろあります。24時間体制でやっていますが、ご不満を持っている方もいますし、決して完璧なものとはいえないわけですが、何となく現状に満足しているところが緊張感が足りない所以といったらいいでしょうか。広大な面積の隅々の市民の方々に満足して頂ける体制かということ決してそうとはいえない、かといって急にどうこうならない状況です。

篠田市長

緊張感が足りないという面で思い出したんですが、39ページの体力テストのところをご覧ください。

中学校全体で平均を下回ったのが91%です。

これが今まで放置されていたんです。

小学生でも61%、こういうことが教育界で全然話題にも上ってこなかった。

そして肥満というのも、私は糖尿病と書かなかったのは、そういう遺伝的な糖尿病もあるので、肥満ということで大体すべての生活習慣病は象徴されていると捉えて、こういう表現にしてあるんですが、

与田座長

肥満を含む生活習慣病とか書いてしまえばいいんじゃないでしょうか。

篠田市長

ここで正しい生活習慣の定着をうながしていくと書いてあるんですが、ちょっと遠慮深かったかもしれません。

体力の大幅向上、肥満の減少をめざすというふうに明確に書いてありますが、今までは緊張感が足りなさ過ぎました。

からだが資本なので、私は、この部分について非常に危機感を持っています。

これを劇的に改善するために食育というものが考えられます。

学校給食だけに責任を転嫁しませんが、家庭で食育が浸透させられないわけだから、行政としてやれるものは、学校教育ということになるんじゃないかと思います。

その部分で食育をやると。

その取っかかりとして米飯給食を若干拡大しようということで、「大地とともに育つ」の部分で触れています。

与田座長

いいですね。米飯給食をやるといのは。

米飯給食をやるときは、食器も新潟の地元のものを使うとか、あるいは箸を使うとか。

箸の持ち方1つしたって全部ばらばらでしょう。

食育もやられるんでしたら、本当はそういうことまでやらないと食育にならないと思いますね。

篠田市長

箸ぐらいは家から持ってきてもらうとか、

与田座長

マイ箸を使うのが一番いいですね。そういう習慣をつけさせるためには食育というのは面白いと思いますし、ぜひ実施をしてもらいたいですね。

大川委員

前に申し上げたんですが、タバコの問題があるわけです。

これは世界的というか、もっともっとやっていかなければいけないことで、特に公的なもの、早い話、学校ですね。

校内禁煙はもちろんのこと、敷地内禁煙の時代なわけです。

これもまだ新潟県、新潟市は他県に比べますと非常に遅れていますね。

タバコを吸う人は教職員に採用しないという極論もあるようですが、どう対応するかですね。

例えばポイ捨て禁止条例を作るとか。

どういう対応の方法があるかわかりませんが、これはぜひ取り組みたい。

与田座長

医療できましたので、及川先生、医療ありますか。

及川委員

多少関係するかもしれません。

このマニフェストで37、38ページに防災、保健、福祉の面が書かれておりますが、重要な面が欠けているんじゃないかと思うんですね。

例えば、NBCといわれる緊急時の危機管理。

よくご存知だと思いますが、Nはニュークリアで、Bはバイオロジカル、それからCはケミカルウェポンですね。

化学兵器、生物兵器、あるいは核兵器と、こういうものがいつ、どこでやってくるかわからないというようなことが1つあります。

それに対する対応がちょっとないなど。

それだけじゃなくて、それに対してSARSウイルスなり、鳥インフルエンザなり、いろんな日常的の中でそういうものが常に出てくる。

特に新潟は国際都市ですし、外国の船も出入りするということで、そういうものが入りやすい環境にありますし、あるいは毒物。

アジカナトリウムの毒物事件がありましたが、ああいういろんな毒物にしろ、あるいは化学物質、いろんな対象物があるわけです。

それへの対応をどうするか。

だからこれは、一市がやるだけじゃなくて、大学病院なり、ほかの大学なり研究機関との連携をとらなければいけない。

行政と研究機関とが連絡をとらなければいけない。

そのためには、例えば今の市の衛生試験所は衛生危機管理センター、あるいは衛生戦略センターみたいな形にしなければいけないと思います。

昔は試験機関がなかったが、今民間の非常に優秀な試験機関がたくさんあります。

そこへどんどん外注を出して、衛生試験所は危機管理や衛生戦略、環境戦略、あるいは福祉戦略、そういう戦略機構、研究機構を設けるべきだろうと。そういう所が行政のトップとの連携をとりながら、あるいは大学病院なり大学の研究機関と連携をとりながら、リーダーシップをとってやるべきだろうと思います。

研究所の所長が相当の権限をもって、いろんな連携をやるぐらいの体制を作らないとできないだろうと。

広島大学と広島市、千葉大学と千葉市の連携でやっているような特殊救急車の整備や、毒ガスなどに対応できる分析体制をすぐ整えるというような意味での、健康やウイルスなどいろいろ入れた健康危機管理体制がマニフェストにないなと思って見ていました。

これだけの都市であれば、当然そういう体制を作ってしかるべきだろうと思います。

与田座長

その辺は国がやっているいわゆる感染症関係のセンターはありますね。

そこで感染症関係は全部やりますよね。  
そういうのは地方にも必要なんでしょうか。

及川委員

必要だと思います。国のそういうところと連携を取りながら。

与田座長

現場としてできる、

及川委員

即対応できるような、

与田座長

今は衛生試験所というのは何をやっているんですか。

大川委員

それなりにやっているとは思いますが。

及川委員

こういう緊急時の機能はどうですか。

与田座長

感染症は鳥インフルエンザやSARSなどがありますね。

及川委員

かなりやっていると思いますが、即対応できるという面ではどうかなと思います。

篠田市長

全体的な危機管理に対応する危機管理官というのを新年度作ります。

そこが指令塔になり、全ての危機に対応する。

まだ不十分かもしれませんが、明確な責任者は決まったと思います。

ただ、ここでは23ページの一番下ですが、例えばこれから食の新潟を売っていくときに、農産物の生産履歴の記帳の徹底や安心安全な農業というのが重要になってきます。

農薬についても、ポジティブリストへの対応という中で、私は食品の衛生検査、あるいは農業生産物の検査、履歴の確認というのは非常に重要になってくると思うし、その中で市が行えるものを新年度予算もいくつかつけていますが、行政がすべてやるのは限界があ



と思うので、幸い薬科大学さんも近くにありますし、連携していきたい。

与田座長

さっきおっしゃったアウトソーシングすればいいんですね。

篠田市長

バイオリサーチだってそういう明確な役割を、研究員を抱えて10年、20年も士気を高めつつ専門の能力をつけるというのはきわめて難しい話です。

そういう面で及川先生、今の衛生試験所では機能しないというお話につながるのかなというふうに聞いたわけですが。

与田座長

そこで今お聞きしてわかったというか感じたのは、衛生試験所ではなくて衛生戦略機構だとおっしゃった。

そのために、どういう戦略を立てるかというところがポイントで、それが決まってしまうとその機能についてはアウトソーシングできる。

そこを今、市長がおっしゃってられるんですが、新潟市のいわゆる衛生戦略はこうやってやりますよと。

それは食の安全も含め、さっきおっしゃった感染症の問題も含め、新潟は空港と港を持っていますから、当然のことながらSARSなんかが入ってくる可能性があります。

SARSのときに一生懸命に熱があるかないかモニターでもってやっていたよね。

これからの行政というのは、そんなにたくさんの施設を自分で持つべきではないし、人員を持つべきではなくて、基本的な方向性を決める。それをあとはアウトソーシングで安くやっていくほうが形としてはいいと思います。

篠田市長

SARSの疑いのある人が市民病院に入ったときの対応はすばらしかった。感染症などが持ち込まれたときに、すごくいい対応をしていただける能力を持てる病院があると。

与田座長

これはいるかもしれませんね。

及川委員

それは大事で、やはり一般的な日常的にやるものでも市でやっておかなければならない部分というのはあります。

しかし、ある部分はアウトソーシングできるものは大いにして、そうすれば機材費や人

件費が浮いてきますから、ある意味では別のほうに向けられる。

与田座長

衛生戦略機構というのは面白いと思いますね。

及川委員

新潟市が率先して全国に先駆けて衛生戦略機構というようなものを作って、

与田座長

さっきおっしゃった糖尿病問題であるとか肥満児の問題であるとか、戦略的にはそこで決められますしね。

及川委員

そういうことです。

篠田市長

保健をつければね。

及川委員

保健衛生機構でもいい。

与田座長

だということになればさっき市長がおっしゃった肥満児の問題なんかはここで立てられますね。

篠田市長

これはまた新潟の売りになりますね。

与田座長

及川先生、大体よろしゅうございますか。バイオリサーチパークはあとでお願いします。

大川委員

衛生試験所の話が出ましたが当然いいことだと思います。

ただアウトソーシングというのは、新潟市内でできることと、例えば東京まで出さないとできないことがありますね。

やはり、それだと当然時間がかかるわけです。

緊急的に市内でぜひやらなければならないものと、東京まで送って結果が何日か後にくるものと分けておく必要があると思います。

与田座長

今はまだ、新潟の実力では東京まで送らなければならないものはけっこうありますか。

大川委員

ものによるとは思います。

与田座長

例えば、遺伝子の分析とかそういうやつですか。

大川委員

できるものもありますが。きわめて卑近な例でいいますと、最近話題のノロウイルスってありますが、健康保険で検査できなくて、受診になりますと約2万円ぐらいかかります。

食中毒が発生しますと、我々は保健所に届ける義務があるんです。

保健所の方が来てくれて、それを新潟市の衛生試験所に持っていくと、2日ぐらいで結果を出してくれます。

衛生試験所のきわめてわかりやすい仕事の1つです。

与田座長

ちゃんとやっているんですね。

及川委員

もう少しトータル的にものを考えたほうがいいと思います。

やれる試験所では、ウイルスはほとんどの対応はできています。

与田座長

食の安全の話も出ましたが、食戦略の話もありますので、伊藤先生いかがでしょうか。

伊藤委員

私は、この食とか食糧の問題、農業の問題については、マニフェストにずいぶん入れていただいているので、ほとんど言うことはありません。

これだけのことをマニフェストとしてやるということは大変なことだと思っておりませんが、一方、やられる側の市民という立場でいったときの市民は何をやるんだと。

市長は新潟力という言葉を使っておられるんですが、市民度とか市民力という言葉があ

るかどうかわかりませんが、市民力と市民度というのはどういう概念なんだといわれると、1つの私たちが普段常識的に思っているような、あるいは行動しているような規範とレベルみたいなものが、どの程度なんだろうかと考えると、まだ足りない、ああしてほしい、こうもしてほしいと様々あるかもしれませんが、そういう時代でもなかるうと思います。

これだけのものを発していくためには、同時に市民力というもの、市民度というものを一緒に上げていかなければだめなんですね。

市民が行政におんぶに抱っこじゃ、これは終わりなんですね。

町と村が恋をして結婚するというようなことがございましたが、その市民度なり市民力をもっともっと高めていくためには、この一緒に作業するというか、協働というプロジェクトみたいなものをどんどん打ち上げていく必要があるのかなと思います。

さっき食の問題も話が出ておりましたが、物1つ作ることの喜びなり大変さというものがその中から生まれてくるだろうと思います。

たまたまこの間、東京のNHKの近くに用事があって行ってきましたら、全国の食のフェスティバルをやっていたんですが、滋賀県の近江八幡のほうで菜の花プロジェクトをやっていたんですね。

それで、その地元の人たちと話をして、国産で絞った菜種油 100%のやつを1本 800円で売っていました。

皆さん方も同じだと思うんですが、子どものころは周りには菜種畑がありまして、菜種は油屋に行って絞ってもらって、それで天ぷらを揚げたりしていました。

子どものころに親が農作業とかして夕方帰ってくる間に、子どもの仕事として天ぷらや何か揚げておきなさいといわれるわけですね。

よくジャガイモなんかを輪切りにして揚げたりしていたんですが、あの味がそういえば最近思い出せなくなっているなと思っていたら、あれ菜の花 100%だったんですね。

買った菜種油で天ぷらを揚げたら、なつかしい味がしまして、非常においしい味がしました。

今は休耕田などもいっぱいあるわけです。

菜の花を作れるわけですし、それから廃液を集めてガソリンに混ぜたり、油にしたり堆肥にしたり、雇用の場も生まれるかもしれません。

まさに循環型社会なんです。

都市と農村の協働の場面をこれからどんどん作っていかなければいけない。

そういうプロジェクトをどんどん提起していく。

主語は誰ですかと言ったときに、篠田市長がというわけではないわけです。

これはあなたたちがやるんですという部分をどんどん作りながら、例えば食なら食ということについて大いに汗をかく場面を、これから細かいところが出てくるかと思いますが、増やしていきたいなと思います。

もう1つは、さっきもご紹介があったんですが、資料の6ページのところでおやっと思

ったのが、人口1万人あたりの図書館の数が第1位なんです。

きょう初めて思ったのは、田園型文化都市というのか、ここでは国際文化都市という言葉が市長から今回あったんですが、こういったものを集めたらどういうものができるのかな。

与田座長

そういう専門の図書館という意味ですか。

ちょうどイギリスの田園生活とか、ガーデニングがいっぱいありますね。

今おっしゃるのは、田園都市として田園に関する書籍を専門に集めている図書館。

伊藤委員

それだけではなくて、やっぱり行動する、

さまざまなアクションを起こす。

2、3年前から、新潟の松之山に里山科学館で、キョロロとっていますけど、松之山の森にいる生き物から植物から地層から地勢からさまざまなものを紹介していますね。

研究員もいて、それをさまざまなイベントを組みながら発信をしているんですね。

こういう田園の文化の本を置いて、どんどん出してもっと知ってもらおうという、そういう拠点としてのものですね。

こういうものを造れないかなと。

潟もいっぱいありますし、大河もありますし、湿地もあります。

緑とか食とか花とかに関する一大文化拠点として発信できたり、造られたりできるものがあつたらいいなと思います。

きょうのテーマは、何か言い忘れたこと、追加したいことということでしたので、付け加えればそんなところかなと思っておりました。

与田座長

ありがとうございます。

市長、今度造られる鳥屋野潟の施設にこういうのがなかったですか。植物園でしたか。

篠田市長

植物園はやめたんです。

棲み分けをもう少し明確にしなければいけないんですが、基本的にアグリパークを白根地区に造り、鳥屋野潟南部には田園を体験していただく体験ゾーンを造りたいと考えています。

そこで今の話は非常に面白いし、例えばビュー福島潟はすばらしい活動をおやりですが、ただあれは豊栄市で唯一の施設だったので、福島潟に関する以外にもいろんなことを

やっていたんです。

だから、今度は潟文化、水文化みたいなものに集積をして特化してもらって、清五郎で田園体験博物館みたいなものができればすごくいい。

与田座長

文献もみんなそろえたり。

篠田市長

あともう1つは、今回は選挙しないで行政が作ったマニフェストです。

選挙なら、私もこうやるけどあなた達もこうやって下さい、というのを相当明確に言えたと思うんですが、行政が勝手に作って勝手なことを言うなと言われると悪いので、こちらの表紙に、「かつてない都市が生まれる、そのための準備にあなたからも参加してほしい」ということを、ささやかに書かせてもらっています。

ここが大事なところで、市民がこういうふうに頑張るよと、あるいはそういうことならおれたちもっとやるよということが出てこない、マニフェストの数値目標なんかもみんな達成できなくなる。

だから市民の皆様とにかくその気になっていただくかが重要です。

これは合併式典で言ったことですが、田園型政令指定都市というのはお任せ民主主義からの決別である。

行政任せをやめてくださいということを、合併したらとたんにお前そんなことを言うのかと言われるけれども、そういうことが分権型、田園型の意味なので、やっぱりそのあたりをこちらでも明確に伝えていく時期が新年度かなと思っています。

与田座長

今、伊藤委員がおっしゃった新潟の市民力とか市民度というものをやっぱりパンフレットにして1回出してみる。

データとしてこういう市民度があるんだよと。

もう1つは、協働の中で油をリサイクルするという話をされていましたね。

この辺は実はある程度、NPOなんか関わってやっている部分があるんですが、都市生活者と農村生活者の場合に都市生活者から農村生活者へやるものというのは、今のところないわけです。

逆にいうとくるばかりで。

新潟市は、プラスチックの再生はやってますが、オイルとか廃油なんかで集めて肥料に使えるというものがあれば、ベストはNPOあたりがやればいいんでしょうが、なかなか組織化ができませんから、市あたりが一部をそちらへ回すとかしながら、リサイクルのゼロエミッションみたいなサイクルを作り上げていくと、循環ができていくのかなと。

我々は農村に行ってたまたま田植え手伝ったよ、野菜植えたよ、ということではできませんが、それは何のためにもならなくて自分のためにやっているわけです。

一番私が感じたのは、向こうのためになるような形で、都市生活者も農村生活者に対してお手伝いができるシステムを市が全部やれとはいいいませんが、初めだけやってもらおうと、あとNPOが何かに回せるかなというということです。

篠田市長

バイオマスの取り組みというのは重点的にやらせていただく。

与田座長

そのあたり、肥料とか回っていくと一番いいですね。

篠田市長

あと1つは、民間ですでに動きはやっていて、新潟市は生ごみのあれは補助金を出しているんだっけ。

事務局

菜の花プロジェクトは新年度から、学校の天ぷら油の廃油を集めてバイオマスディーゼルで市の清掃車の燃料を新年度からやります。

篠田市長

生ごみを肥料にするやつ。あれに対して行政は支援してなかったっけ。

事務局

ないです。ご家庭で設置するということ、

篠田市長

生ごみについては民間の企業で肥料化するという動きが出ていますが、循環型社会を作る1つのツールなので、大変ありがたいというか、

伊藤委員

菜の花はどこでどれくらいやるんですか。

事務局

新年度はとりあえず花を蒔く、場所等を探すというところです。

伊藤委員

9月か10月くらいから種を蒔くんでしょう。

事務局

とりあえずは休耕田のようなところを考えています。

与田座長

そういう形で都市生活者もいろんな意味でやっているよということをわかるような仕組みを作っていくといけない。

どこがやっているんだと。

ほかの企業を持ってきたらわかりませんから、それが市民に見えるようになるともっともっと今の話が見えてくる。

伊藤委員

種を一緒に蒔くところから参加していただいたほうがいい。

及川委員

菜種と天ぷら油、これが大きいですね。

これもバイオディーゼルのオイルになるわけで、そういうのも一緒にやっていったらいいと思います。

伊藤委員

それをセットで。

及川委員

セットですね。そのほうがいいですね。

そのほうが効率がいいです。

事務局

絞るかすは肥料にもなります。

与田座長

そこらあたり、わりと裏でやっていることが多いから、もっと表に出してやらないと今の協働という形になっていかないんですね。

では大熊委員、お願いします。



大熊委員

防災について、先に一言いっておきたいのは、このマニフェストの中であまり水害問題が触れていないということで、この資料の中に最低限の海面下の面積の記載が必要だと思います。

たぶん新潟市が断トツで1位なんじゃないでしょうか。  
標高0メートル以下じゃなくて、海面下ですよ。

与田座長

標高0と海面下とは違うんですか。

大熊委員

日本海の標高は大体平均プラス50センチメートルぐらいですから、それより低い所というようにやらないと意味がありません。

標高0メートル以下というと、面積がずっと減りますから。  
50センチメートル違います。

与田座長

何で違うんですか。

大熊委員

日本海のほうが50センチメートル高いんです。  
東京湾中等潮位が標高0メートルです。

与田座長

こっちのほうがそこより高いんですか。

大熊委員

平均して高いんです。

与田座長

なぜ流れていかないんですか。

大熊委員

対馬海峡や津軽海峡など日本海の出口が狭いからです。  
それで見えていたら、これほとんど0メートル以下じゃないか、海面以下のところじゃないかという感じなんです。

河川課を作るとか作らないとかいう話も聞くんですが、やっぱりその辺の問題は県だけに任せられない問題もたくさんあるだろうという感じがします。

やはりハザードマップを徹底して作る必要があります。

白根のハザードマップは私が座長で作ったんですが、去年の7月13日に避難勧告が出て1,000人くらいが避難しているんですけども、全然うまくいかなかったということが明らかになっています。

ハザードマップを作ってもただ配っているだけで、どうするのか皆さんにきちんと伝えるということをやっていませんでした。

新潟の場合はそれをやる必要があるだろうし、今後さらに危険なところが市域になったわけですから、その辺は徹底してもっと考える必要があります。

与田座長

自治会レベルである程度きちっと説明会を開くとかそういう形でしょうか。

大熊委員

もちろん。ハザードマップを作ったら自治会レベルできちんと説明会までやるということが大切で、まずそこが一番気になりました。

その点は、あまり私もこの会ではしゃべってなかったですから。

それからもう1つ、ここの中で新潟市の市街地のところを考えると、駅から萬代橋を通っていく軸線と、もう1つ、信濃川沿線の軸線とがあるわけです。

この2つが新潟市の市街地の大きな骨格を作っているわけですが、駅から萬代橋を通ってのところは、33ページの下のところでも代橋通り線景観形成として出ています。

この地区は、いわば商業軸とかあるいは生産軸といってもいいのかもしれませんが、もう1つ、信濃川の軸線があるということで、この軸線はいわば僕は文化軸だと考えています。

「りゅうとぴあ」があり、音楽堂があり、スポーツ施設があり、美術館があり、朱鷺メッセもできました。

それから歴史博物館があり、重要文化財の萬代橋があり、といったような形で文化軸になっていて、この辺を河川空間という形ではどこかで書いてあるんですが、それは河川空間に限定されているんです。

26ページの河川空間の保全と活用、これはいわば河川敷地内だけの話であって、その周辺の民有地まで議論がいてないですね。

だから、この辺は今の文化軸という考え方の中で信濃川沿線の両脇の土地をどうするのかということ、やはりもっと打ち出してほしいなと思います。

この前、萬代橋フォーラムというのを新潟市民団体の5団体でやりました。

そういう意味では、私は新潟の市民力というのはかなり高いと考えています。

私は、その発端はシネウインドにあったと思うんですが。

与田座長

県の万代島の倉庫でやったやつ、

篠田市長

万代島フォーラム

大熊委員

僕はあのころから、そういう意味では新潟の市民力というのはどんどんアップしてきていると思うんです。

私が見ると福島潟も含めて、ここから北にかけてはそういう市民活動が非常に盛んですが、むしろ中之口川だとか西川沿いというのは弱いんですね。

そういう意味では、田園と港町が恋をしたという意味ではそういう市民活動をもっと広げて行って、伊藤先生がおっしゃったような市民力を高めていくということは非常に重要なのかなと思いました。

新潟水辺の会の宣伝になりますが、中之口川沿いに小吉水辺の会を立ち上げたということでは協力はやっているところですよ。

それと、図書館の話が出たので、私も図書館長をやっている気になるんですが、正直言って、今までの新潟市の図書館はレベルが低い。

豊栄とか白根の図書館がずっとレベルが高いんですね。

だからぜひ、新潟市も今度新しく図書館ができてレベルアップしていただきたいと思います。

与田座長

そのレベルアップの中身というのは例えば先生のイメージからいくと図書館としてのレベルというのはどの辺が基準になるところですか。

蔵書でしょうか、それともいわゆる運用でしょうか。

大熊委員

お金もないから、いい本をどれだけ選べるかという選書力だとは思いますが。

与田座長

選書力のもととは誰でしょうか。司書ですか。

大熊委員

そうです。

いい司書がいるかどうか、その司書をどれだけ育てているかということになっていくと思います。

市の図書館としては、子どもたちが読むいい本を、どれだけそろえられるかということだと思うんですね。

与田座長

そういう意味では、お金も限られていますから、さっき伊藤委員もご指摘になったように、ある程度特化していくというか。図書館ごとにそれぞれ特徴をもたしていくようなことをしないと、充実した品揃えというのが難しいような気がします。

大熊委員

専門的になると県の図書館だという形になっていきますから、市の図書館として何をやるべきなのかという戦略を練っていったほうがいいと思います。

もうすでに美術館もできた、りゅうとびあもできた、歴史博物館もできたということなのかもしれませんが、そういう文化をどうしていくのかということがあまりマニフェストの中に書かれていない。

金沢は今 21 世紀美術館というものを造って、造る前から学芸員を何十人かそろえて、建物を造るところまで全部学芸員にやらせたりして、今やっぱり金沢は文化政策にすごく力が入っています。

だから新潟は、文化政策として今後どうするのか。

その中で、図書館というのは 1 つの重要な軸であると思うんですね。

美術館はそんなにたくさん持つ必要はないと思いますが、図書館が一番市民に密接した文化のバロメーターだと思いますし、図書館をどんな方針でどういう図書館にしていくのか、その辺を次の選挙のマニフェストに出してほしいと思います。

篠田市長

そのために、文化振興ビジョンというのをこれから作っていただきますが、文化施設を造るといったことを私はイメージしなくて、やはりソフト面です。

既存の施設は、それぞれの役割を一定果たしてきたんでしょうが、その後、これでいいのかどうかというのも含めて考えていただく。

それが国際文化都市新潟というものをつくる土台になるだろうと考えています。

政令市になる 2 年間でこの文化振興ビジョンを作って、それと同時に動いていきたい。

選書力というのは、この間も新潟市の幹部が集まる会議で出ました。

今の選書力で大丈夫かなと、私も非常に心配です。

これから、新しい図書館はああいう形で造ることに決まったわけなので、どういう本をそろえるか。

そして、個々の小さい図書館が全部情報ネットで結ばれますので、どこにこの本があって、今貸し出しが可能かどうかというのがわかるわけです。

そこで中央図書館をどう特化するのかというあたり、ソフトをどう充実させるかというのは早急に検討する必要があります。

大熊委員

ごみの問題が出ていて、今は農業ごみが非常に問題なんですよ。

やっぱり、私はこれから田園型政令指定都市というときに農業との関係で、農業から出たごみを補助金でも出してうまく処理する必要があると思います。

今の制度では、我々が農業ごみを集めてきて市のほうで引き取ってくださいといっても引き取ってくれないんですね。

我々が集めて自分で処理するという形になっちゃったりするんですよ。

そこら辺1つとっても問題があるので、ちょっと支援法を考えてほしい。

それから、佐潟などの水質については、農薬や肥料の問題などがかなりあるわけですね。

低農薬、低肥料でやったときには生産が上がらなかつたら何か補償してあげますとか、何かそういうような制度でもできていかない限り改善されないと思います。

与田座長

そうしないと農薬を使うのは減らないと。

大熊委員

これから農業を大事にしていくというときに生産面だけでなく、

与田座長

ごみの問題とか使う肥料の問題とか、

及川委員

今のこと、全くそのとおりだと思います。

ごみは農業者も生産者も本当に困っているんですね。

法規制で焼いてはいけないとしたときは、焼ける方策を教えてあげなければいけない。

ビニールを集める方法、これもできるわけです。

もう1つは、農業政策を進めるうえで、農薬の問題にしる、安全にしる、農業サイドだけじゃなくて価格サイド、その人たちも一緒になってやると非常に解決が早いんです。

食の安全の問題も、今の農薬の問題も。

与田座長

それは共同作業をしたほうがいいのかということですか。

及川委員

農水サイドだけでやろうとするから解決が見つからないという面もあると思います。

与田座長

縦割り型じゃまずいということもあるんですね。

熊谷さんから私も含めて一般市民ですが、最後に熊谷さんはどちらかということ都市経営のこともあるかもしれませんが、最後に言いたいことを言ってください。

熊谷委員

まず1点、マニフェストを最近手元にいただいて通読をして、僕はいろんな調査をしてきた観点から言って非常によく書かれていて、網羅的で非常に素晴らしいと思いますが、ただこれ本当に全部やろうと思うと大変なボリュームだなと思っているんです。

一覧表になって、しかも後段のほうには詳しく書いてあるんですが、これはやっぱりうちの銀行も新潟について中期ビジョンなるものを作って、3年計画でいろいろやっていこうということで発表もしています。

やるにあたっては濃淡をつけていかないといけない。

実は全部一様に達成しようとする、ほとんど3年後に困るんじゃないかと思うくらいなんですね。

ただ、濃淡をつけて公表するわけにはいかないと思いますが、やはり実施にあたってはそういう観点をもたれないとなかなかこれだけ膨大なものを作るのは大変だなと思っています。

マニフェストはすばらしく盛り込むという意味では、ほとんど私が申し上げるまでもないような感じになっていますが、今までずっと議論をしてきて、今後の政令市を迎える新潟市っていくつも観点はありますが、一言1点だけといわれると私の立場からさまざま考えてみるに、交流人口の増加は、すべてにわたってキーワードになりうるんじゃないかなと思います。

要するに、まちづくりという観点でずっと議論してきたわけですが、交流人口がもしかしたら2010年問題も含めて非常に減少するんじゃないか。

あるいは横ばいでもおそらく困ってしまうんだらうと思います。

したがって交流人口、来ていただける人がどんどん増えるような施策というものがあらゆる面でキーワードになっているんじゃないかと。

都市ブランドをつくるというのも、私どもの中期ビジョンに大々的に掲げてあるんですが、都市ブランドをつくるというのは、内訳はたくさんあります。

これは生活者のためでもあるんですが、交流人口ということが観点にあります。

すべて交流人口に結びつくという観点でいろんな施策をお考えいただくといいのかなと思います。

食と花についても、生活者のためもありますが、やはり交流人口を増やすということだろうし、まちづくりも、快適な暮らしをしていただくということはもちろんありますが、一方で、交流人口の増加に最大のポイントになると。

私も新潟へ来てやっと9ヵ月経ちますので、だんだん新潟の状況がわかってきました。

都市の生活利便性、都市の中の交通というのは、マニフェストの中にも書いてありますが、例えば軌道系みたいなもの、それが無理だとすれば、何か代替的なものもお考えいただけいいのか。

都市と農村が結婚したわけですから、都市がしょっちゅう行ってみたいような、あこがれの場所で、行っても足がないとだめですから、大きい新潟市になってもスムーズに交通ができるようになってほしいと思います。

今までのようなバスの路線のあり方では、ほとんど実現しないなという感じを持っています。

他の都市ではLRTを入れたりとかやっているわけですが、それが最大のポイントだと思います。

それから、街の中で街が魅力を持つためには、おしゃれをして出かけていきたいような街になってないだめだということで、少し総論めきますが、そういうことでまちづくりというのを考えないといけない。

街がおしゃれをしていけるような魅力的な街で、しかも簡単に少し外れの地域からでも出てこられて、スイッと帰れる。

買物したのに1日がかかりだったということがないように、そういう利便性を3年という限定じゃなしに、けっこう長い中で見ていくということが必要かなと思います。

これは市内の魅力度アップです。

あと、交流人口を増やすという意味では、我々の調査では新潟は首都圏との結びつきが非常に高く、ほかの都市に例がないくらい東京とだけ仲良くしています。

近隣と仲よくする手法としては交通手段もありますし、意識的に交流を働きかけることも必要だろう。

県外との関係ですね。

歴史的にいうと、会津若松とは歴史的に仲がいいんですけど、山形とか北陸というのは親の敵みたいに思っている人もいるわけですね。

やっと9ヵ月で勉強したんですけど、もっともっと幅広く近隣の県との交流を図る必要があるだろうと思います。

その次に出てくるのは国際的な交流です。

海外との交流もすると。

篠田市長

今、大変ありがたいアドバイスをいただいたんですが、我々新潟市役所は全部そろっているわけなので、これをこの部分は濃くて、ここは薄ということはありません。

これをどの部分もマニフェストの工程表に合わせてやっていきたい。

熊谷委員

もう1つだけ。

いつも思っているんですが、新潟市の一方通行というのは都市の利便性とかいうことからいって、どうしてああいうふうになったのか理解に苦しむんですね。

全然便利じゃないですし、タクシーに乗ると全くこんなところを入れていいのかなというような小道をすいすい行く。

そんなところを通らなくても別に両側通行できるところがいっぱいあるのに、なんであんなことするのかと思います。

与田座長

これは検討事項でしょうね。

篠田市長

これは政令指定都市になる2007年に、全面的に変えていただきたいということで関係機関に申し入れてあります。

柳都大橋から東堀に行くのが2007年を予定してますので、このときに全面改定していただかなければ改定するタイミングがないと考えています。

2005年度、2006年度に警察の方としっかり勉強して、私は基本的に一方通行は必要なくなると思います。

それから榎谷小路の右折もぜひやらせてほしいと。

これはできれば、2007年を待たずに詰めていきたいと思っています。

与田座長

県外車両がかわいそうなんですね。

長谷川委員

一方通行が入ってくる逆行が多くなりました。

篠田市長

こんなところが一方通行だと思わないんですよ。



与田座長

それで交流人口は増えると思いますね。

長谷川委員

だから、きちんとわかりやすいまちづくりをしないとだめだと思います。

与田座長

西條さん、お待たせしました。

西條委員

2つありまして、1つは古町の中央商店街の事務局をずっとやっているんですが、交通問題がすごく大きなテーマで、なぜ一方通行なんだとか、軌道系の話とか何回もやってきています。

今は、都市交通政策課、街づくり推進課さんにも来ていただいて勉強会をしているんですが、まちづくりのビジョンがなければ、市民から税金をいただくことができないとみんなおっしゃいます。

合併をした新市の中で古町地区のどういうアクションがあったらいいかということ、都市の構造も含めていろいろ検討しているんですが、同じように、旧豊栄市とか旧新津市、いろんなところで、団体とか商店街さんが大きくなった新市の中で自分たちの商店街をどうやったらいいかとたぶん考えていると思います。

でも、いくら考えても地元の店主たちには見えない部分は大きいんですね。

データとか資料なんかも役所の方が持っているし分かっている。

過去の事例もわかっているわけなので、お願いということではないんですが、全体の中での各地のまちづくりを、地元の方と行政の方と一緒に進めていく中で、行政の方にはぜひ主導的な役割をとっていただきたいなと思っています。

税金を投入する以上、住民の意見がなければ出せませんといっても、住民のほうも意見を出すにはデータも少ない状態があるから、そのカバーをぜひお願いしたい。

古町のほうも、この戦略会議では色々と言われちゃうんですが、実際参加をしている側からすると危機的な意識が強く一生懸命なので、ぜひ温かい目で見てほしいなと思っています。

もう1点、主婦としてなんですが、子どもを育てる関係で、地域のコミュニティがないからすごく不安だと言っていました。

それがマニフェストではずいぶん盛り込んでいただいていると思って安心をしています。

犯罪防止とか見守り隊がいるとか、この辺はすごく満足はしているんですが、先般、町内で自主防災組織を作りましょうということで防災訓練をしたんですね。

しかし来ているのは、お年寄りと消防士さんに会いたい小学生で、中間層の現役がない

んです。

地域には現役がない。

現役のコミュニティをどうするかということなんですが、市民活動支援センターができて、運営理事に入っているんです。

あそこは大熊先生もかかわる水辺の会さんとか、地域にはあんまり足を置いてないかもしれないけれども、関係のある環境とかテーマを持ったコミュニティが多分あると思うんです。

地域のコミュニティとテーマ別のコミュニティ、大人の世界、これをくっけるとまあ地域にはあまりいないお父さんはカバーできるかなと思うので、その2つをくっけて何かの際のコミュニティというふうに見てもらえたらいいのかなと思っています。

テーマを設ければ、都市と農村とかも結びつけることができるんじゃないかと思うので、テーマ別にコミュニティを作るということで、田園と都市を結んでいくことも可能かなと思いました。

与田座長

地域だけに限定されずにテーマでもって結びつく地域がありうるというそういうコミュニティ、あるいはNPOでもいいんだけど、そういうふうないわゆる組織体があってもいいんじゃないかと、こういう意味ですね。

西條委員

これだけ大きくなっちゃうとやっぱりテーマを持たせたことによって、都市と農村が結びつくと思います。

与田座長

あと商店街の問題も大変だと思います。

特に、新潟も危機感を持っていますが、各商店街もみんなシャッター商店街で危機感を持っています。

このあたりはどうやったらいいんでしょう。

本当のことをいえば、東京で考えれば上野へ買い物に行く人と銀座へ買い物に行く人は違うわけですね。

そういう役割分担をどのように持っていくか。

あるいは、自分の地域の特徴をどう出していくか。

もちろん買いまわり品関係はきちっと押さえるにしても、地域・地域同士の特徴をどう出していくか、競い合う場みたいなことができていかないと、目標を持った商店街の形になっていかないなという気が個人的にはしています。

このあたり、全体の集まりがあればいいんだけど、ないんですね。

西條委員

一生懸命考えるんですよ。

亀田にでっかい店舗ができたらとっても大変だとか、

与田座長

郊外の大型店がお客を全部持っていきますから、大店法の問題と関係があるんです。

この前その話になりましたが、大店法ももう少しまちづくりに貢献してもらわないといけないところがありますから。

では長谷川委員。

長谷川委員

私は言いたいなと思っていたことをみんな熊谷さんに言われてしまったのですが、やっぱり81万人になるということもあって、交通問題はかなりブアだと言われ続けてきており、この交通のことに関しては頑張ってみんなで考えなければいけないだろうと思います。

ブラジルのクリシバというところが非常に面白いことをやっていて、新潟によさそうな気がします。

LRTもいいけど、実はそっちがいいなと本当は思っていて、その辺も市民の力と結集した交通のあり方というものを勉強してみたいかかかなと思います。

与田座長

そこはLRTではなくて何をやっているんですか。

長谷川委員

いろんなことをやっているみたいなんです。

その都市の大きさに合った交通をどうやって選ぼうかといったところから、市民が参画して動いています。

25時間かけていけば行けるらしいんですが。

マニフェストに古紙のリサイクルの強化とあるんですが、出したんだけど回収所が遠いというのがあって、これは高齢者にとってはかなりきつい話じゃないかと思います。

この回収方法とか、具体的にもう少し改善できるところはしていかないと、何となく全体的に高齢者がアクティブに夢を持って、頑張っ生きていくぞ、というところに行かないなという気もちょっとしました。

ぜひその辺は具体的なところで考えていただきたいと思います。

それから、前回もちょっとあったんですが、交流人口を増やすというときに入口となる、拠点となる駅、空港あたりのサイン、市内の案内やサイン等がまだまだだと。

景観に配慮しながら作っていくというのは非常に大事ですが、具体的にどうやって関連

機関と相談しながらできるかということ、かなり難しい問題があって、それはそれできちんとした勉強をしていかないと、これだけ広い都市を考えていくにはすごく難しいだろうと思いました。

ぜひユニバーサルデザインの観点でいろんな部分でやっていただけたらと思います。

与田座長

軌道系を造るとなると、造るのはできても運営主体の問題と赤字がどうなるかという問題があるんですね。

その運営手法を考えれば、かなり面白いものができますね。

最後、平沢委員。

平沢委員

私は前日も申しましたが、徒歩・自転車・公共交通機関で合併した市町村に行けるよう、利用者の立場で考えた道路、バス時間とそのアクセスを整備してほしい。

理由は、待ったなしの地球環境と高齢社会に突入している事です。

第一に排気ガス対策、次に合併した市町村の交流、例えば、地酒・地ビール・地ワインをもっと高齢市民や旅行者に心おきなく味わっていただくために。

親子そろって徒歩・自転車でまちの隅々まで見て回る、こういう楽しい経験が高齢になっても自転車に乗り遠出を楽しむ事につながると思います。

従って運動不足や肥満、交通事故も少なくなり、まちまちで今何が必要かも肌で感ずる事ができる。念願のLRTが整備されたら、帰りは自転車を積み込んで帰るもよし、となる事を願っています。

もう1つ古町の活性化といいますか、この会議に参加して大いに気を強くしたのは、若者に対し、大人の文化圏と言いましょか、新潟独自の歴史を背負う町の伝統文化の奥深い感動を味わい、またこれを育てる気概を生む古町こそ今テコ入れの時と思います。

県都新潟が育てた料亭文化、また沢山の寺が町の中心に集中しているのは珍しいそうですが、このほっとする境内で音楽会や季節の催しや朝粥とお説教を聞くなど心身洗われると思います。そこに観光客も外国人も新潟の歴史ある街や踊りを見ながら料亭で料理を食べるといった経験を通して農産物と同じくらい港町新潟に深い印象を持ち、もう一度ゆっくり、となつて欲しいと願っています。

与田座長

ありがとうございました。

最後に市長から一言お願いします。

篠田市長

本当にありがとうございました。マニフェストを使っていただいて、より論議が具体的になったなと思っています。

その中で、大事なのが抜け落ちていたのも今もお話の中でいくつかあります。

私の頭の中には、もちろん熊谷支店長がおっしゃるような濃淡というのはあるわけですが、とにかく新潟を一度は行ってみたいまち、訪れてみたいまちにするのが一番大切だと思います。

しかし、交流人口を増加させるべきだというように、まだ市民は基本的にそう思っていないと思うんです。

交流人口を増加させることが、なぜ新潟のまちの活性化になるのかという基本的な計算は必要なんだろうけれども、どううまく市民の皆さんがその気になってそれぞれの誇るべきものを自慢をしていただけるかが重要です。

今のところただ花を自慢しなさいと言っても、新潟がこんなに花の力があるということは知らなかったと。

まずは花の都市ということを知ってもらうのが第一段階で、第二段階をご自身で楽しんでいただく。

次はみんなに自慢をしたくなるという、そのステップを何とか2年間でやっていきたいと考えています。

相当ステップの踏み方が急なんですけど、政令指定都市になったときには自慢をしたい新潟、そのイメージがそれぞれに浮かんでくるようにしたい。

そして最後、これが一番難しいんですが、特に新潟に知り合いがいない人が新潟に来たときに、新潟を快適に移動していただく街になっているかどうか。

全域というわけにはとてもいかないので、少なくとも代表的なここは見てほしいというコースは間違いなく、迷うことなく、しかもわりと安いお金で行けるようにする必要がありますだろうと思っています。

残念ながらLRTは2年では間に合いませんので、そのつなぎをどうするかということを考えて、将来プランとしての交通体系、これも考えていかなければだめだと。

そして県を越えた連携という面で羽越本線高速化というのは非常に重要なテーマだと思っています。

会津若松も新潟に期待してくれているので、SLで4月2日には会津へ行きます。

鶴岡の市長は今年来ていただいて、羽越高速化で握手をさせていただいていると。

泉田知事も羽越高速化、それから空港アクセス、そしてそれを担保する連続立体交差というのが最優先の戦略プロジェクトだということで、初めて新潟市と新潟県の話がぴったり合ったので、一生懸命やらせていただこうと思っています。

それを踏まえると、新潟都市圏の中でいきなりLRTだどうだというのは財政的にもちょっともたないと思うので、このつなぎをどういうふうにやっていくかというのは一番難

しいテーマかなと感じていて、またこの席でも改めて感じさせていただきました。

これまで皆様からいただいたご意見は、マニフェストにも、あるいは予算にも反映した部分もありますが、またきょうも新しいご意見をいただいたので、2005年度の途中から使えるものは大いに活用させていただきたいと思えますし、また政令市に向けて大変ありがたい指針、課題をいただいたと思っています。

これまで本当にお忙しい方にたびたびお集まりをいただきまして恐縮でしたが、皆様方から出された意見をきっちり受け取って無駄にしないようにして、皆様方の時間も無駄ではなかったと言っただけのように頑張っまいります。

本当に、これまでのご議論ありがとうございました。

与田座長

不慣れな座長でしたが、大熊副座長も大変ありがとうございました。

これをもってすべて終了いたしました。

ありがとうございました。

- 以上。